

ハンセン病教育推進へ

学校現場でのハンセン病に関する教育の推進を目指し、岡山県疾病感染症対策課は、教員向けの動画を製作した。国立ハンセン病療養所の長島愛生園と邑久光明園（ともに瀬戸内市）で行われている宿泊研修の様子などを通じて差別や偏見の歴史を伝えるとともに、授業の実践例も紹介している。（中村啄也）

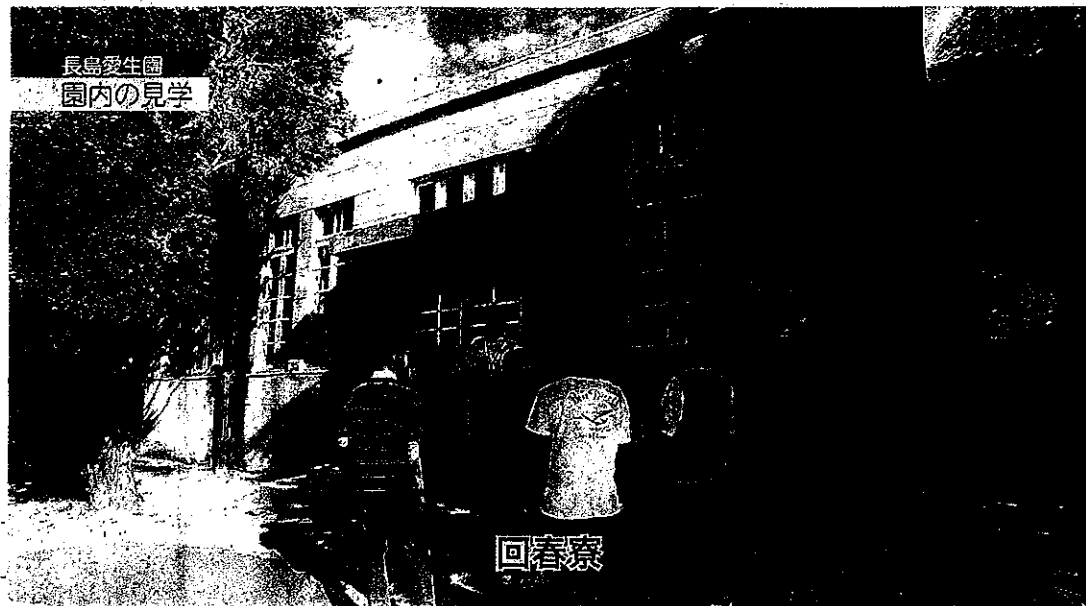
岡山県が教員向け動画製作

「若者に伝えたい」他にワークショップは、ハンセン病問題の継承方法を考えてもらおう内容。授業の実践例（24分）▽ハンセン病

歴史 授業実践例紹介

問題への理解を深めるワークショップ（13分）▽中学校での授業の実践例（12分）のテーマで構成している。

宿泊研修は、教員を目指す岡山大（岡山市）の学生が参加した様子を追いつつ、強制隔離された愛生園の入所者が最初に上陸した収容桟橋、消毒風呂があった収容所（回春寮）などの歴史的建造物を解説。「隔離によって人生をなくされた。今後もしろんな病気が出てくると思うが、もう私たちだけでいい」と訴える長島愛生園入所者自治会の中尾伸治会長の肉声も収めている。



長島愛生園
園内の見学

回春寮

宿泊研修をテーマにした教員向け動画の一場面

は、備前市立日生中の生徒が長島愛生園歴史館の学芸員らから講義を受けている。両園の入所者自治会の協力を得て作り、疾病感染症対策課のホームページで公開もしている。

同課は「分かりやすくまとめているので、ハンセン病問題を子どもたちにどう伝えるかを考える教材にしてほしい」としている。